



あ い の

Vol.4

2010. 7月発行

Contents :

整形外科

皮膚科

各担当医より就任の挨拶

ダイバーショナルセラピー

VSRAD アルツハイマーが数字で見える!?

院内行事

七夕会

お誕生日会

整形外科 ～就任のご挨拶～

この度、平成22年4月1日付けで整形外科部長として当院に赴任致しました、横田淳司です。
ご挨拶申し上げます。

平成3年に大阪医科大学を卒業し、整形外科医としては20年目を迎えました。整形外科一般のほか、肩関節の外科（特に小侵襲の関節鏡視下手術）と関節リウマチの保存的治療を専門としています。



整形外科部長 横田淳司

藍野病院手術室は改装を行い、1室はクリーンルーム化（手術台周囲はNASAレベル1000を達成しております）、関節鏡視下手術用機器の増設、出入り口の2重ドア化を図り、これまで行ってきた外科、泌尿器科、眼科等に加え、より感染対策が重要となる整形外科の手術（脊椎、人工股関節、足部変形に対する矯正手術以外の全ての手術）にも対応可能となりました。これまで以上に患者さんに信頼されるように、また、患者さんの訴えに真摯に耳を傾け、一番喜んでいただける治療法を選択できるように努力いたしますので何卒宜しくお願いいたします。

手術室

中央材料室



ウォッシャーディスインフェクター

この数年間で、当院の中央材料室は大きく改善してきました。ほんの10年ほど前までは、地下の滅菌室に看護助手を配置し、手術室の看護師が兼務で運用していました。

勿論、大型オートクレープ・EO滅菌機・超音波洗浄機を配置していましたが、一時洗浄は各病棟で看護補助者が洗浄と消毒を行っていました。



手術室の様子



プラズマ滅菌器

まず、平成16年に中央材料室のスタッフを専門の派遣業者に変更し、手術室看護師は手術に専念できるようにしました。次に平成20年、大阪府のEOガス排出規制により、ガス滅菌機をプラズマ滅菌器に変更しました。この変更により滅菌時間のスピードアップと多くの消耗品をディスポ製品に見直す機会になりました。なにより、スタッフの健康被害の心配がなくなったことはとても大きな利点だと感じています。

そして、昨年にはウォッシャーディスインフェクターを導入し、念願の中央材料室での洗浄・消毒・滅菌の一元処理化をすることができ、消毒薬の使用量削減と消毒、滅菌の保証度が高まりました。また、病棟内での業務の削減となり、本来の介護業務に関わる時間も増えることとなりました。このような設備投資は、多額の費用がかかりますが、安心した医療を提供することが、患者さんにとっても、スタッフにとってもモチベーションアップにつながり、相乗効果を得るものと考えます。

看護部 副部長 石谷嘉章

皮膚科 ～就任のご挨拶～

平成22年4月1日より、皮膚科常勤医として赴任いたしました窪田正昭と申します。

当科は、常勤医の私（日本皮膚科学会専門医）と非常勤医2名で診察をしており、業務は外来と病棟回診です。

外来につきましては、特に特殊外来等は設けておりませんが、皮膚科全般にわたっての診療を行っております。これまで永らく常勤医が不在でありましたため、外来の数もまだ少ないですが、時間をかけて増数していくつもりです。

ニキビに関しましては、昨年10月に新薬（薬名はディフェリンゲル）が発売され、外来でのみ処方可能となっておりますので、難治でお困りの方がおられましたら、是非当科に受診してください。（新薬に関しましては保険適用の薬剤です）

手術（特に顔面の母斑や腫瘍）につきましては、非常勤の形成外科医と連携をとりながら手術を行っております。

一方、病棟の業務ですが、当院は18も病棟があり、又皮膚科疾患がとても多く、1日3～4病棟をまわります。疥癬のチェックと褥創の治療が主な仕事です。

最後に私のサブスペシャリティーについてお話しさせていただきます。私は、皮膚病理組織学診断を得意としております。診断が困難な疾患については皮膚生検を行って診断の方針をきめます。これまで組織診断から膠原病、血管炎や皮膚悪性リンパ腫やサルコイドーシスや薬疹などを診断してまいりました。診断のつきにくい皮膚病、市販薬で治らない場合等も受診頂ければ治療を行っていきますので、是非ご相談ください。簡単ですが、赴任にあたっての御挨拶とさせていただきます。



皮膚科 窪田正昭

ダイバーショナルセラピー NO.4

赤ちゃん人形による『ドールセラピー』について③

今回は、前回ご紹介いたしましたドールセラピーを用いた症例の考察です。

●症例A 98歳女性・アルツハイマー型認知症

役割を得た事によりこれまでみられていた独り言が赤ちゃん人形への語りかけへと変化し、他者から注意されることがなくなったことから自由に感情表現ができるようになり、精神的に安定する。

●症例B 82歳男性・アルツハイマー型認知症

難聴の為に他者との交流を躊躇していたが、赤ちゃん人形を介し非言語的交流がとれるようになる。これが契機となり自発話の増加など日常生活における積極的な行動が引き出される。

共通点として

赤ちゃん人形を介し自分自身が他者から注目されるという経験や、他者との肯定的な交流が増える事で、孤独感が減少し心地よい感情を抱くことができたと考えられる。

※ 次回 まとめと今後の課題 について



病棟から

七夕会

7月と言えば梅雨明け？夏到来？祇園祭り？とその前に七夕でしょう！

ということでここE2病棟では今回、四季のレクリエーションの一つである七夕会の準備を行いました。笹に付ける飾りは患者さん、スタッフ、実習生皆で作成して、短冊にそれぞれの願い事を書きうまく字の書けない患者さんにはスタッフが代筆したりと日々懸命に取り組みました。

七夕会の準備ではハサミやのりを持参され、熱心に飾りを作るなど、患者さん同士や実習生との会話も弾み、大勢で楽しいひと時を過ごしました。

一方、四季折々のレクリエーション以外にも、療養病床領域では日々様々なレクリエーションを実施しており、患者さん全員が参加できる集団レクリエーションをはじめ、趣味や機能に合わせた個別レクリエーション(アクティビティケア)も取り入れています。

ケアワーカー長 吉田直人



お誕生日会

6月2日(水) W2病棟のホールでお誕生会を開催しました。恒例のスタッフによる出し物は、なんとマジックです。

見て分かりやすいマジックにしようと看護師、臨床心理士、作業療法士が一致団結しました。果たしてみんなの反応は・・・！？

大成功！！

掛け声とともに喜びのポーズをすると、患者さんから笑いと拍手が起こりました！

「おもしろかったよ～」という感想も頂き、次回はもっと驚かすことができるように企画しています。



お問い合わせ

総合受付

TEL:072-627-7611 FAX:072-627-3627
入院のご相談は 「地域医療連携室」まで

季刊誌「あいの」を最後までご覧いただき、ありがとうございます。
今回は新しく着任した先生の紹介と当院の取り組みをご紹介させていただきます。
皆さまに役立つ情報をお伝えできるように、ご意見を今後の特集に生かしていきたいと考えておりますので、ご感想・ご意見・ご要望などありましたら、いつでもお気軽にお問い合わせください。お待ちしております。

編集委員一同

編集後記